

天 界

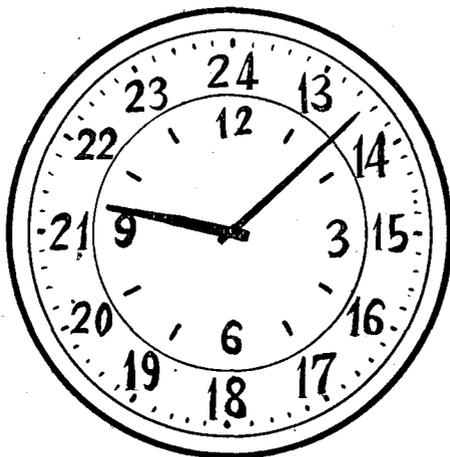
(第 22 卷)

第 2 5 7 號

昭和17年第11號

24時制の時計の文字盤

雁募案 No. 3



(本誌第三五頁を見られよ)

(大阪 高城 武夫)

京大
113

本部：田上天文臺 東 亞 天 文 協 會 事務局：滋賀縣 堅 田

1942年

十一月の天象 (時刻は日本標準時)

Heavens of November.

十一月は、“3日の明治節の日に雨が降つた例は絶対に無い”と言はれるほどに、好天氣の約束される季節である。従つて、天象の觀察には、一年中の最上の時であることを忘れてはならない。——我が日本で、今日の天文ファンは、都會に多い。これは實に遺憾なことである。言ふまでもなく、都市といふものは、星を見るのに最も不適當な土地なのである。ラヂオと星とは、田園生活者の特權であることを思ひ、もつと田舎に星のファンが増すことが願はしい。殊に、流星や黃道光や變星の觀測などは、都市では殆んど絶望である。

この十一月は、8日に太陽が天蝸宮の中央に來て、“立冬”となり、23日には“人馬宮”に侵入して、季節は“小雪”となる。例によつて、新黒點群の出現を見逃さないこと。

月は、1日に下弦、9日に新月、15日に上弦、23日に満月となる。故に、下旬のアンドロメダ流星群は之に妨げられるけれど、中旬の獅子座流星群は(殊にその初期出現は)都合好く觀察し得るだらう。

遊星界は、火星金星水星の三つが太陽に近くて、觀測不可能のほか、他は皆、大抵、便利よく見られるが、しかし、何れも、夕刻よりも、むしろ早曉の空の見ものとして、樂しまれるものである。中でも、天王星、土星、木星の三つは、非常に見易く、若し手頃の望遠鏡があれば、終夜見飽きない眺めであらう。

木星の4衛星の出沒は、この月の間、頻繁に見られ、殊に5日には第四衛星の蝕が、始めも終りも共に我が日本で見られる。又、24日にも第三衛星の蝕が、始終共に見えるのは、見逃してはならない。詳細は天文年鑑(天界247)第27頁を見られよ。

23日の23時過ぎ、アルデバラン星が月に掩蔽される。これも可なり興味深いものである。

蝕變星アルゴルの極小は、急報557號に豫報してあるが、殊に此の現象の終夜觀測に適するのは十一月10日の夜である。

會員に關する報告

〔入會者〕	日比謙三(名古屋)	工藤晶三(東京)
菊川 丞(神戸)	瀧山昌夫(東京)	岸本恒夫(大阪)
長谷川致正(桐生)	教育博物館(山口)	明治學院中學部(東京)
長谷川敏男(札幌)	林 清一(東京)	小島成彦(大阪)
麥 林璋久(西宮)	木村旭志(倉敷)	
〔觀測部入部〕	工藤晶三(東京)	教育博物館(山口)

(注意): 御移轉の節は直ちに(前住所も並記して)御通知下さい。
觀測部(へ入部)の方は其旨附記して下さい。

昭和17年分會費・部費領收者芳名

會費(完納)	菊川 丞(神戸)	吉池浩暢(長野)
吉岡文男(京都)	南 由次郎(和歌山)	水尾衛也(山口)
藤一 郎(山口)	原 澄治(倉敷)	米井 信夫(東京)
森川 鉉二(東京)	教育博物館(山口)	田 中 清(大阪)
森 清太(鎌倉)	工藤晶三(東京)	玉置 彌榮(東京)
同(一部完納)		
瀧山昌夫(東京)	麥林璋久(西宮)	岸本恒夫(大阪)
長谷川致正(東京)	田中徳雄(京都)	小島成彦(大阪)
林 清一(東京)	木村旭志(大阪)	
部費(完納)		
津留 繁雄(熊本)	教育博物館(山口)	工藤晶三(東京)

(順序不同) (領收通知に代ふ) (1942-8-31締切)

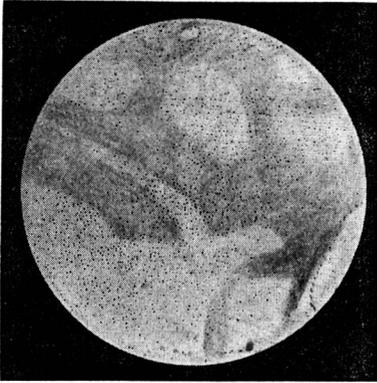
本 號 要 目

表紙繪: 24時制の時計の文字盤 No.3
 口繪寫眞: 1941年十月の火星スケチ(5)
 卷頭隨筆: PLUTO の譯名について 山本一清 347
 宇宙の年齢(1) H. N. ラセル 350
 24時制の時計面の考案 高城武夫 355
 土星環初等論 竹内時男 357
 暗黒より黎明へ(1) R.G. エイトケン 358
 一つの疑問 364
 黒點觀測結果報告 蔡章 献 365
 學者が忘れてゐる星座(3) 山本一清 370
 天界新知識(7件) 373
 標準天文用語表(11) 376
 觀測部月報: 遊星面・太陽・流星・彗星 378
 たよ 382
 消息(3件) 349, 364, 375
 天界正誤表 369
 天の川(俳句) 372
 たてぐみ: 星の名で呼ばれる七つの化學元素 山本一清(383)
 1942年十一月の天象 表紙 第2頁

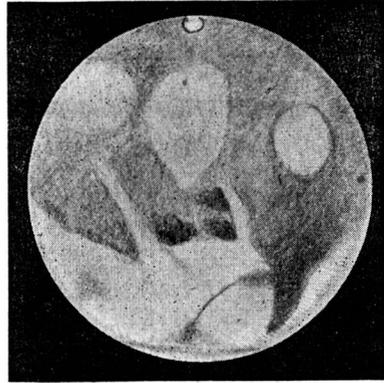
1941年十月の火星スケチ (5)

Sketches of the Mars, 1941 October.

(25)
伊達英太郎氏
Dr



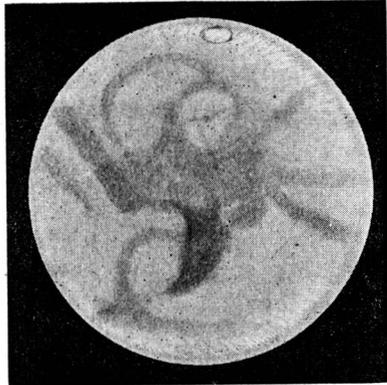
(26)
村山定男氏
S. M.



(27)
蔡章猷氏
S



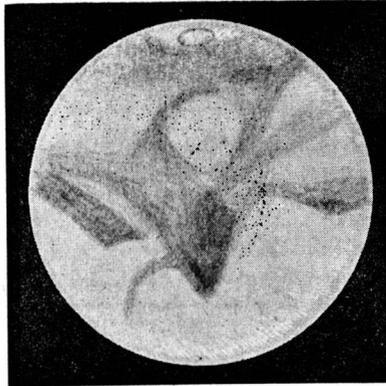
(28)
前田静雄氏
Mh



(29)
渡邊恒夫氏
Wf



(30)
木邊成磨氏
Kp



(25) Oct. 24, 19^h55^m. $\omega=260^\circ$

(27) Oct. 23, 20^h10^m. $\omega=277^\circ$

(29) Oct. 22, 22^h45^m. $\omega=295^\circ$

(26) Oct. 25, 20^h30^m. $\omega=260^\circ$

(28) Oct. 23, 21^h20^m. $\omega=290^\circ$

(30) Oct. 20, 20^h10^m. $\omega=300^\circ$

東亞天文協會

大正9年(1920年)創立, 昭和7年(1932年)改名

會長	山本一清	(滋賀縣草津町大路井420; 同栗太郎上田上村桐生)
副會長	宮森作造	小槇孝二郎
理事	宮森作造	觀測部長 木邊成麿
專務理事	中村覺	經理部長 宇野良雄
教育部長	高城武夫	事業部長 大口周作
報導部長	山本一清	理事(無任所) 美田爲三

本部所在地	田上天文臺 滋賀縣栗太郎上田上村桐生
事務所所在地	滋賀縣堅田局區內
經營する天文台	倉敷天文台 岡山縣倉敷市
大阪支部所在地	大阪市電氣科學館プラネタリウム (大阪市四ツ橋)
臺灣支部	臺北市公會堂內
黃道光觀測所	廣島縣沼隈郡瀬戸村

東亞天文協會觀測部

1. 流星課 (課長 和歌山縣有田郡金屋 小槇孝二郎, 幹事 宇野良雄)
2. 彗星課 (課長 滋賀縣草津町大路井420 山本 進)
3. 變星課 (課長 木邊成麿, 幹事 小澤喜一)
4. 太陽課 (課長 缺, 幹事 靜岡縣志太郡吉永村吉永1768 大石辰次)
5. 黃道光課 (課長 田上天文臺 山本一清, 幹事 本田 實)
6. 豫報課 (課長 山本一清, 幹事 神田壹雄)
7. 機械課 (課長 滋賀縣野洲郡中里村木部 木邊成麿)
8. 寫真課 (課長 大津市鹿關町 堀井政三)
9. 遊星面課 (課長 伊達英太郎, 幹事 佐伯恒夫, 青木章)
 火星班 (班長 兵庫縣川邊郡雲雀丘 伊達英太郎)
 木星土星班 (班長 大阪市四ツ橋畔 電氣科學館 佐伯恒夫)
 水星金星班 (班長 大阪市四ツ橋畔 電氣科學館 青木 章)
10. 掩蔽課 (課長 大阪市住吉區萬代東4の6 高城武夫)
11. 月面課 (課長 伊達英太郎)
12. 歷史研究課 (課長 兵庫縣武庫郡本山村岡本高石344 井本 進)

觀測部規定 (昭和6年11月22日制定)

- 第1條 本觀測部ハ東亞天文協會ノ目的ヲ達スル爲メノ一事業トシテ, 天體ノ觀測研究ヲ行フ。
- 第2條, 第3條, 第6條 (略)
- 第4條 東亞天文協會員ハ希望ニヨリ本觀測部員トナル事が出來ル。
- 第5條 部員ハ觀測上ノ必要ニヨリ課長ノ指導及ビ東亞天文プレテン, 東亞天文協會急報並ビニ種々ノ印刷物ノ配布ヲ受ケル。

天界 第257號

昭和17年9月28日印刷
昭和17年10月1日發行

Ⓢ [定價金40錢] 送料金1錢

編輯兼發行 滋賀縣滋賀郡真野村大字真野513

東亞天文協會 (振替大阪56765)
(代表者山本一清)
日本出版文化協會第2種會員(第220038番)

發行所 同上
印刷所 京都市上京區上樺木町千本東入
印刷者 同上
配給元 東京市神田區淡路町二丁目九番地

同上
眞美印刷所 [電西陣3702]
橋本岩太郎
日本出版配給株式會社